

石油小形給湯機

工事説明書

National

品番

OW - 40JBZ (屋外設置形)

OW - 40JBE (屋内設置形)

この工事説明書は、工事作業者が正しく、安全な工事をする為に必要な手引書です。工事開始前に必ずお読みください。
なお、この工事説明書は取扱説明書と一緒に必ず保存してください。(設置工事後、お客様にお渡しください)

安全上のご注意 (必ずお守りください)

施工される人への危害・物的損害を未然に防止するためと、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、設置工事において必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を見逃して誤った工事をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度」です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。

警告

据付けや移動は販売店へ依頼すること



お客様ご自身で据付工事され、不備があると感電や火災の原因になります。

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事や水道工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る



製品、油タンク、排気筒の据付けは、規則を守らないと火災の原因になります。

屋内設置禁止 (OW - 40JBZ)



必ず屋外に設置してください。火災や予想しない事故になります。排ガスを室内に出すと、一酸化炭素が発生して中毒になるおそれがあります。

油配管工事は正しくすること



油配管工事は工事説明書に従って施工し、配管および本体から油漏れがないことを確認してください。油漏れがあると火災の原因になります。

ガソリン厳禁



ガソリン、混合油 (農機具用) など揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

ガソリン厳禁 灯油 (JIS 1号灯油) を使用してください。

この工事説明書、別販部材の説明書に従って工事をする



据付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や交流100V以外での使用はしない



屋外設置タイプは防雨型コンセントを使ってください。他の機器と併用するとき、発熱による火災の原因になります。

電源コード、電源プラグを破損するようなことはしない



傷付けたり、引っ張ったり、加工したり、高温部に触れたり束ねたりしない。傷んだまま使用すると感電・ショート・火災の原因になります。

据付工事部品は必ず付属部品および指定の部品を使用すること



指定部品を使用しないと、機器の転倒や落下、水漏、火災、感電の原因となります。



SEA8752 C

警告

外れ危険・点検必要 (OW-40JBE)



排気筒を確実に接続し、しっかり固定してください。
振動、衝撃などで外れたりすると、運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

屋内排気禁止 (OW-40JBE)



必ず屋外に排気してください。
排ガスが室内に漏れて、危険です。

排気部材は「ナショナル石油小形給湯機」
専用のものを使う (OW-40JBE)
(新しいものを使ってください)



異常燃焼や排ガス漏れの原因になることがあります。

囲い禁止 (OW-40JBZ)



機器や排気口を波板などで囲わないでください。
不完全燃焼し、一酸化炭素が発生する原因になります。また火災のおそれがあります。

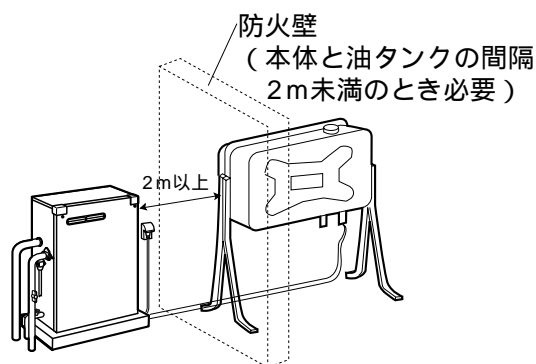
注意

次の場所には据付けない



火災や予想しない事故の原因になります。
水平でない場所、不安定な場所
不安定な物を乗せた棚などの下
可燃性ガスの発生する場所又はたまる場所
付近に燃えやすいものがある場所
階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
排水のしにくい場所
浴そうと同一室内
空気取入口のない場所または換気が行えない場所

油タンクとの距離を離す



油タンクは機器より2m以上離して据付けるか、防火壁を設けてください。
屋内に油タンクを据え付けるときは不燃材の床上に据え付けること。

ゴム製送油管の屋外使用禁止



ゴム製送油管は屋外で使わないでください。
ひび割れを生じて、油漏れの原因になります。

排気筒トップがふさがれない位置に設置する



積雪の多い地域では、排気筒トップが雪でふさがれないような位置に設置すること。
不完全燃焼を起こすことがあります。

設置場所の選定には下記の内容を守ること



十分排気が行える場所
排気筒工事が基準通り行える場所
油タンクが安全に設置できる場所
他の燃焼機器の排気口から1m以上離れた場所

改造使用の禁止



改造して使わないでください。
異常燃焼や火災の原因になります。

可燃性ガスのある場所に設置しない



可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わないこと。
万一ガスが漏れて周囲にたまると、発火の原因になることがあります。

アース工事をすること



アース線接続

アース工事を確実に行ってください。
故障や漏電のときに感電するおそれがあります。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

リモコンの取り付け場所を選ぶ



幼児の手の届かない場所に取り付けること。

⚠注意

排気筒を固定する (OW - 40JBE)



排気筒は風や振動などで倒れないよう、支え金具や支え線などで固定してください。

高地 (標高1500m以上) 使用禁止



標高1000~1500mで使用するときは、調整が必要です。そのままご使用になりますと、異常燃焼や故障の原因になります。

手袋などの保護具を着用して工事を行う



金属切断面などでけがをするおそれがあります。

空気取入口を設ける (OW - 40JBE)



空気取入口、換気口を必ず設けてください。空気取入口、換気口がない場合、不完全燃焼から人身事故につながるおそれがあります。

メタルラスなどの壁とは電氣的に接続しない



機器とメタルラスとは電氣的に接続しないでください。壁を貫通する金属部材(給水・給湯管、油配管、電線管など)はメタルラスと電氣的に接続しないでください。(電気設備技術基準により義務づけられています)感電や火災のおそれがあります。

必ず試運転を行い、安全を確かめる



油漏れ、排気漏れ(臭気)、燃焼の異常などがないか確かめてください。お客様と立ち会いで試運転してください。

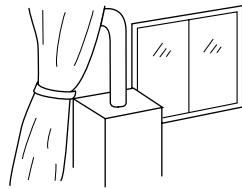
排気筒の点検 (OW - 40JBE)



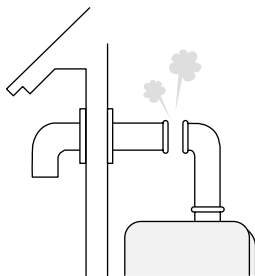
取り付けが終わったら、もう一度点検してください。次のような取り付けは、危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがありますので、必ず修正してください。



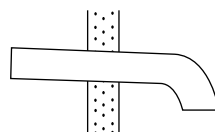
可燃物近接禁止



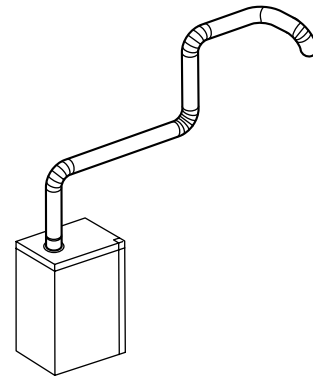
接続のゆるみ点検



下り勾配のこと



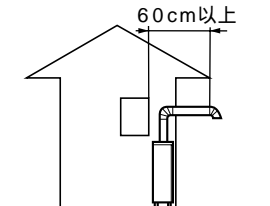
7m3曲がり以下のこと



危険物近接禁止



排気出口と開口部は60cm以上離れていること



排気出口は他の燃焼機器の給気口から1m以上離すこと

⚠️ 注意

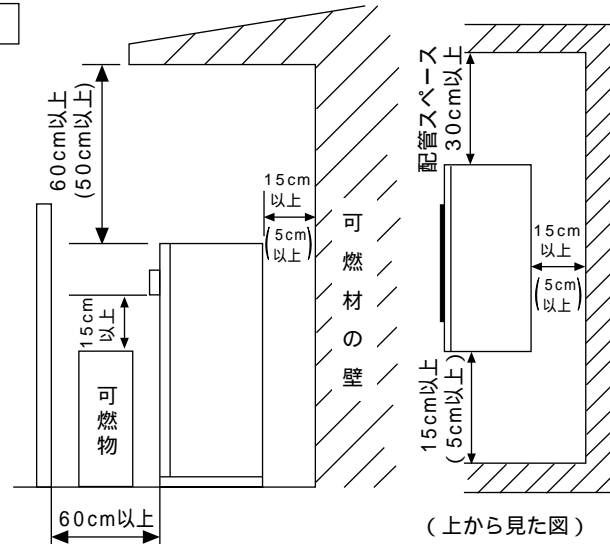
可燃物との距離は離す



標準据付け例 () 内は防熱板等を使用の場合

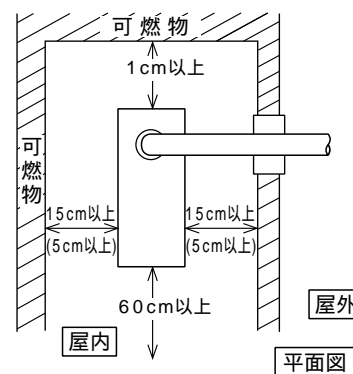
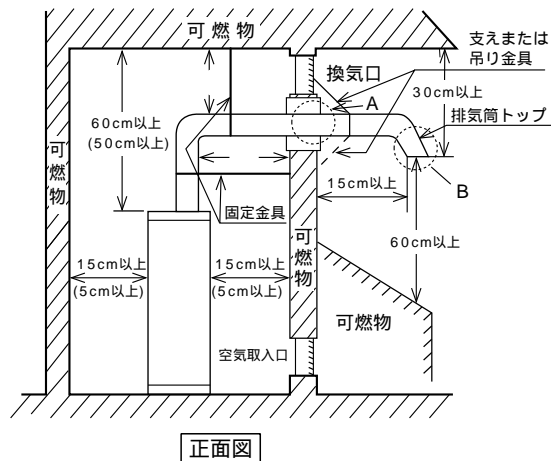
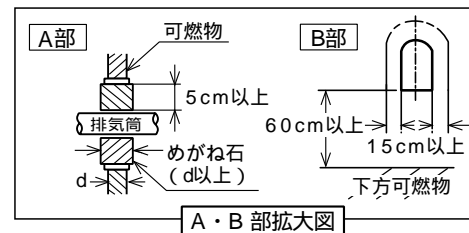
金属以外の不燃材の床上に据え付けるか又は、防火上有効な措置を講じた金属の台上に据え付けること。

OW-40JBZ



OW-40JBE

印寸法は排気筒径の半径以上
() 内は防熱板等を使用の場合
排気筒は固定金具で1.5～2m間隔に固定すること
は保守点検スペースとして60cm以上あけること
印寸法は防火性能評定認定品のため設置できる寸法です。
(1cm以上の寸法は通常15cm以上必要です。)

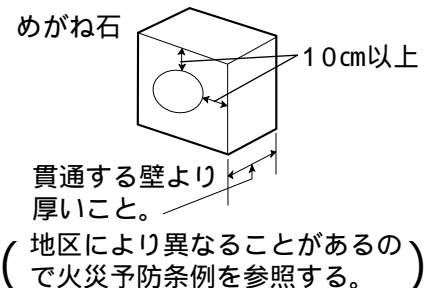


家屋貫通部の注意

排気筒が可燃性の壁などを貫通する部分は必ずめがね石を使用してください。

排気筒の固定

1. 排気筒は、風や振動などで倒れないよう支え金具や支え線などで固定してください。
2. 排気筒は、1.5～2mおきに固定金具で固定し、自重を支える部分は支え又は吊り金具で堅固に支持してください。








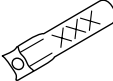



梱包内の機器を静かに取り出してください。
 梱包内には取扱説明書・工事説明書の他に、下記の部品も付属していますので、取り付けの前に確認してください。




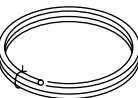

付属品（本体同こん） (OW - 40JBZ)

部品名	形状	個数	備考	部品名	形状	個数	備考
フレアナット		1		丸皿小ねじ (M4 × 35)		2	リモコン固定ねじセット
リモコン		1		オールプラグ (6 × 25)		2	
				丸皿木ねじ (4.1 × 20)		2	

(OW - 40JBE)

部品名	形状	個数	備考	部品名	形状	個数	備考
フレアナット		1	フレアナットセット	操作部カバー		1	リモコン移設セット
ホースバンド		2		タッピンねじ		4	
				化粧カバー		1	
				丸皿小ねじ (M4 × 35)		2	リモコン固定ねじセット
オイル接続管		1	オールプラグ (6 × 25)		2		
			丸皿木ねじ (4.1 × 20)		2		

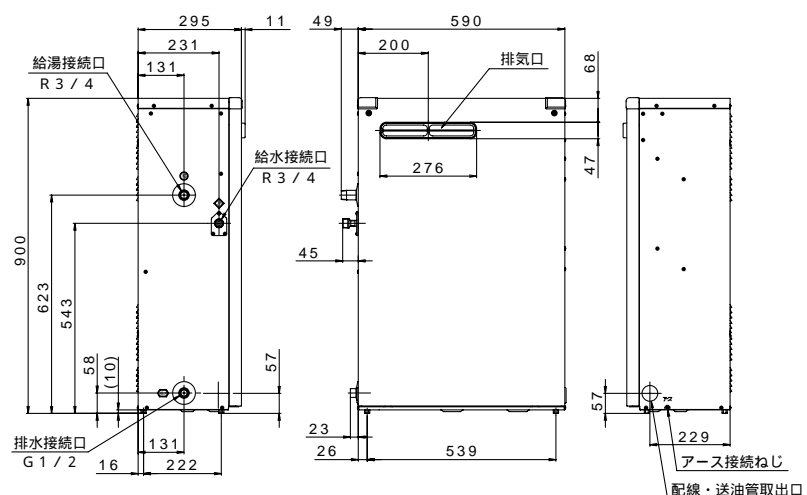
別販品（リビングサポートシステム事業部取扱い品）

品 番	OT-905	OB-PC2K20	OB-PC1A	OB-B07K	OK-B805K
部品名	油タンク	リモコンケーブル	アース棒	送油ホースA(屋内専用)	被覆銅管 8mm 5m
外 観		 (耐ノイズ用は別途)			
数 量	1	1	1	1	1
備 考	タンク容量90 L他に200 L、460 Lあり	2心コード(20m)他に5、10、15mあり		2.5m	他に10mあり

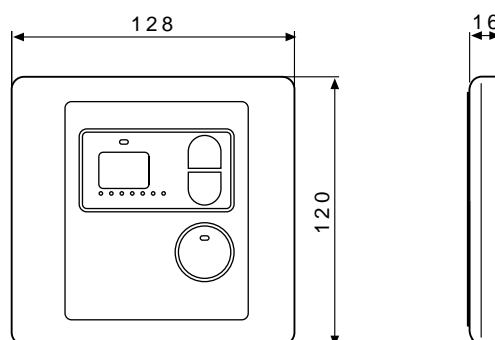
システム部材開発センター取扱い品

品 番	部 品 名	数量	備 考	品 番	部 品 名	数量	備 考
AD-3222B6B	水道用減圧弁	1		AD-T2005S	直管	6	JIS、JIA
AD-3220B6B	逃し弁	1	給湯用 (97 kPa)	AD-T2005S1	半直管	12	JIS、JIA
AD-3220A2	逃し弁	1	給水用 (120 kPa)	AD-T2005L	90 ° エルボ	4	JIS、JIA
AD-3815JSP	自動空気抜き弁	1	R1/2B	AD-T2005G	めがねリング	10組	
AD-T2005FE-1	強制排気筒セット		106	AD-T2005Z	取付金具	10組	
AD-2005HL-1	強制排気トップ		106	AD-OWJBP1-A	アソカ固定金具	1	4枚入り
AD-3100A	ホッパー	1					

本体 (OW - 40JBZ)

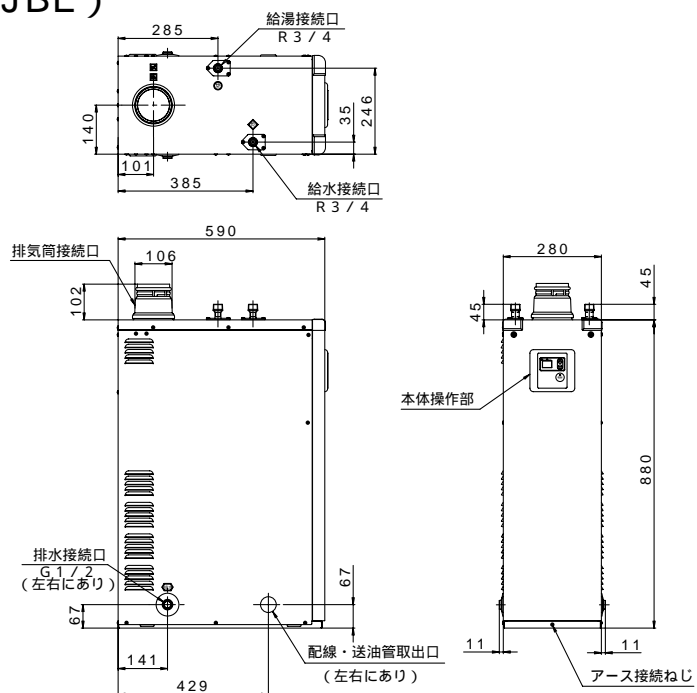


リモコン（本体操作部）



スイッチボックスを使用する場合はJIS C 8336
1個用スイッチボックスを使用のこと

本体 (OW - 40JBE)



据え付け場所の選定

据え付ける場所は水道工事・電気工事などの付帯工事のできる場所にしてください。

また、火災予防上の所定の距離、隣家への防音上の配慮が必要です。

据え付け場所を選定するときは、次の各項をよく吟味してから決めてください。

警告

囲い禁止



(OW-40JBZ)

機器や排気口を波板などで囲わないでください。不完全燃焼し、一酸化炭素が発生する原因になります。また火災のおそれがあります。

注意

空気取入口を設ける

(OW-40JBE)



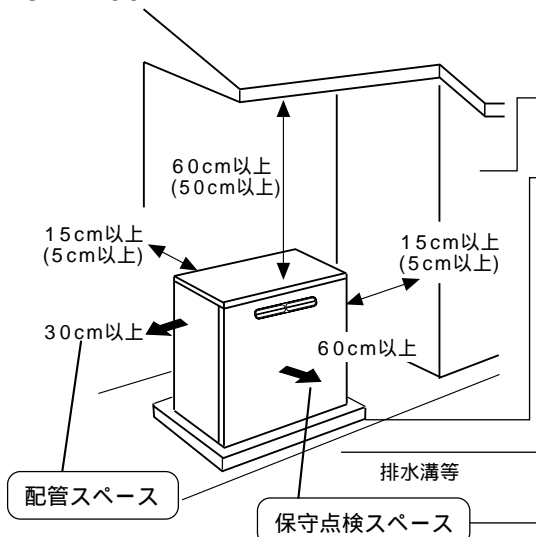
空気取入口、換気口を必ず設けてください。空気取入口、換気口がない場合、不完全燃焼から人身事故につながるおそれがあります。

この機器は、標準仕様では標高1000mまでに設置してください。

標高1000～1500mの高地での設置の場合は、切替えが必要となりますので、製品の配線の赤色コネクター(ラベルを貼付しています)を取り外してください。

標高1500m以上の高地には設置しないでください。(空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。)

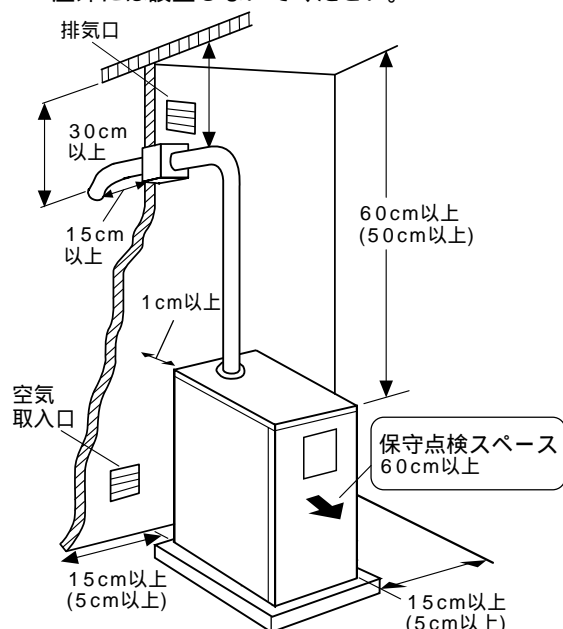
OW-40JBZ



- 1 十分換気のできる場所かどうか
- 2 排気スペースが確保できる場所かどうか
- 3 周囲は不燃物で仕上げてあるかどうか
周囲が可燃物の場合、火災予防上の所定の距離(図の 印で示す寸法)が十分とれる場所かどうか
- 4 床面は不燃性の安定した場所かどうか
- 5 排水のしやすい場所かどうか
- 6 設備後の保守・管理が行える場所かどうか
- 7 付近に燃えやすい物がない場所かどうか
- 8 湿気の少ない場所かどうか
- 9 油タンクを安全に設置できる場所かどうか
- 10 騒音公害にならない場所かどうか
設置場所の選び方次第で騒音は非常に変わります。
騒音公害とならぬよう、十分配慮して設置場所を選択してください。
- 11 機器の設置に当たっては、木造住宅の2F外壁の横など機器の修理、点検が困難な場所には設置しないでください。

OW-40JBE

屋外には設置しないでください。



- 1 十分換気のできる場所かどうか
- 2 排気筒を基準通りに設置できる場所かどうか
- 3 周囲は不燃物で仕上げてあるかどうか
周囲が可燃物の場合、火災予防上の所定の距離(図の 印で示す寸法)が十分とれる場所かどうか
- 4 床面は不燃性の安定した場所かどうか
- 5 排水のしやすい場所かどうか
- 6 設備後の保守・管理が行える場所かどうか
- 7 付近に燃えやすい物がない場所かどうか
- 8 湿気の少ない場所かどうか
- 9 油タンクを安全に設置できる場所かどうか
- 10 騒音公害にならない場所かどうか
設置場所の選び方次第で騒音は非常に変わります。
騒音公害とならぬよう、十分配慮して設置場所を選択してください。

は排気筒の半径以上

()内は防熱板等を使用の場合

機器の後面の1cm以上の寸法は防火性能評定認定品のため設置できる寸法です。

据え付け方法

機器の据え付け

機器は水平器などを使用し、別売のアンカー固定金具（AD-OWJBP1-A）等で固定して水平に取り付けてください。

アンカー固定金具を使用する場合（OW-40JBZ）

製品下部のボルト4本を取り外す。

アンカー固定金具（長穴を使用）を取り外したボルトで製品下部に取り付ける。

アンカーボルトでアンカー固定金具を固定する。

油タンクの設置について

防火壁がない場合

機器との間を2m以上離してください。

200L以上、1000L未満の油タンクを設置する場合

見やすいところに危険物の品名・種別・最大量を記載した標識を取り付けてください。

油タンクの周囲1m以内に建物の開口部がないことを確認してください。

送油管接続口は必ずプラグで締めてください。

下記のを設けてください。

- ・通気口（SUS製の金属キャップを取り付ける）
- ・防油壁
- ・通気管（高さ2m以上、内径20mm以上）
- ・排油ます

500L以上、1000L未満の油タンクを設置する場合

設置届が必要な地方では、各地の火災予防条例に従って、すみやかに提出してください。

機器との接続

フレア加工をしてから接続してください。
袋ナットは締め付けトルク1470~1960N・cm（150~200kgf・cm）で締め付けてください。

燃料フィルター

ごみづまり防止のため必ず取り付けてください。取り付けないと、油切れの原因になります。

容易に開閉できる弁を設ける。

送油配管の空気抜きの方法

油タンクの送油バルブを開き、オイルストレーナーの空気抜きねじをゆるめてください。空気が抜けたら、空気抜きねじを元通り締め付けてください。

送油配管について

配管材料は 8なまし銅管（被覆銅管・品番OK-B805K（5m用））を使用してください。（他に10mがあります。）

油タンク側がフレア接続の場合、銅管のフレア出しは必ずフレア工具を用いて行ってください。

配管長は10m以内にしてください。

地震などで配管と油タンク結合部分に損傷を生じないように必要な措置（配管ループなど）をしてください。

配管の途中に空気だまりができないようにしてください。

銅管の接続部分に変形、キズ、バリなどがないようにしてください。銅管に切削粉や汚れがついている場合は灯油（JIS 1号灯油）でよく洗ってください。

他機器と分岐配管で使用する場合は、同時使用しても油が十分に供給され、正常運転することを確認してください。

屋外配管部にはゴム製送油管を使用しないでください。

アンカー固定金具を使用する場合（OW-40JBE）

製品下部側面の長穴にアンカー固定金具を挿入して、アンカーボルトで固定します。

屋内送油配管

屋内配管に限りゴム送油管が使えます。付属のホースニップルセットで接続してください。

ゴム送油管は「日燃検検査合格品」（内径 6.3mm）を使用のこと。
ゴム送油管は屋外には絶対に使用しないこと。

機器との接続

袋ナットは締め付けトルク1470~1960N・cm（150~200kgf・cm）で締め付けてください。

オイル接続管
ゴム製送油管

送油配管の空気抜きの方法

油タンクの送油バルブを開き、オイルストレーナーの空気抜きねじをゆるめてください。空気が抜けたら、空気抜きねじを元通り締め付けてください。

銅管で接続の場合は、製品正面より向かって右側の配線・送油管取出口より接続してください。

壁貫通部、埋設部は銅管または銅管で配管もしくは壁貫通部材OK-B14K（壁厚200mmまで）OK-B40K（壁厚200~400mmまで）を使用してください。

L型継手OK-B8LK

屋内 屋外
ゴム製送油管で配管 銅管または銅管で配管

入付部品は状況に応じて、必要な部品をご使用ください。すべて使用する必要はありません。

配管工事

配管工事は水道局の指定工事店に依頼し、所轄の水道局の規定にしたがってください。

止水せんは、長期使用しないときの水抜きと、タンク内の掃除の時に必要ですので設けてください。

水道用減圧弁の二次側からの給水配管はできません。（お湯の逆流などの問題があります。）

低水圧、高水圧の条件下では、使用性が悪くなる場合があります。推奨水圧147～490 kPa〔1.5～5 kgf/cm²〕の範囲内でのご使用をおすすめします。

高水圧地区や給水圧力が500 kPa〔5 kgf/cm²〕を超え、混合水せんやシャワーなど水圧に影響される機器を接続するときには、戸別に給水用減圧弁を設けてください。

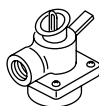
自動空気抜き弁は、熱交換器内に貯まる気体を排出するのに必要ですので、必ず設けてください。

給湯配管

給湯用逃し弁

熱交換器の破損防止のため、この逃し弁（補助逃し弁付）を使用してください。

<AD-3220B6B> (97 kPa)



特に重要ですので、必ず取り付けてください。

自動空気抜き弁

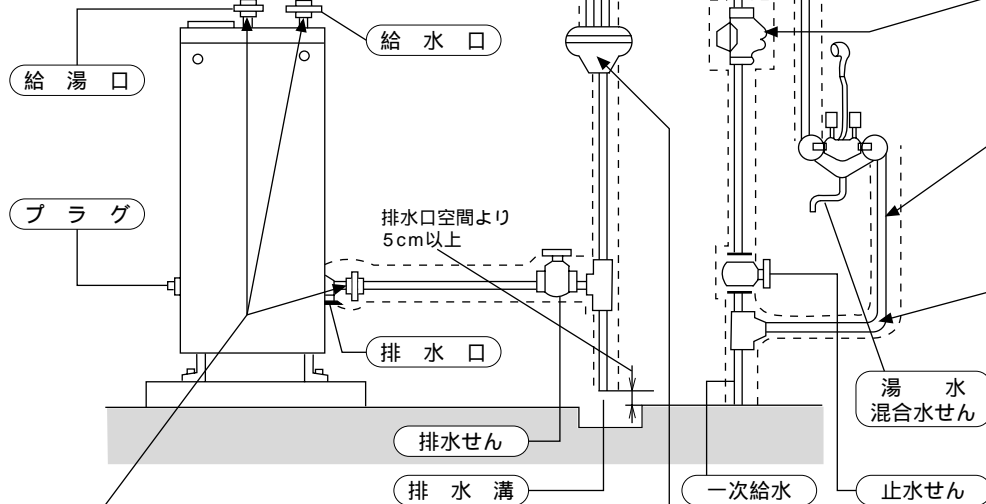
<AD-3815JSP> R1/2B
(他にR3/4Bあり)

熱交換器内に貯まる気体を排出する為に必要ですので配管に対して垂直(10°以内)に付けてください。

配管材料

給湯管は耐久性・衛生上の点から銅管を使用してください。

本施工例イラストはOW-40JBEのものです
OW-40JBZは横配管です。



給水配管

給水用逃し弁

<AD-3220A2>
(120 kPa)



水道用減圧弁

2次圧力設定値
<AD-3222B6B>
(85 kPa)

配管材料

給水管は合成樹脂内面処理鋼管、又は銅管を使用してください。

一般給水配管

水道1次給水より分岐してください。水道用減圧弁の2次側からの給水配管はおさください。

シャワー用給水配管

1次給水圧が高くて温度調整のしにくい機器は戸別給水用減圧弁を設けてください。

ユニオン

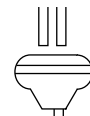
本体との配管接続口には、ユニオンを必ず設けてください。
(機器や部材の点検を容易にするため)

ドレン配管

ホッパー <AD-3100A>

万一、オーバーフロー管が凍結しても、スムーズにお湯が排出されるように必ず設けてください。

寒冷地では逃し弁からの排水配管はホッパーに差し込まないようにしてください。ホッパーに差し込むと配管が凍結することがあります。



階下給湯

2階設置1階給湯は出来ません。

タンクの負圧破壊防止のため階下1mまでとしてください。それ以上の階下給湯は出来ません。

2階給湯

給湯加圧ポンプを使用した2階給湯は出来ません。(タンク負圧破壊防止のため)

5

配管の凍結予防

沖縄を除く日本全国の各地で凍結が発生する気温が記録されています。したがって、寒冷地はもちろんのこと、寒冷地以外の地方でも凍結することがあります。油断せず、凍結予防を考慮した工事を行ってください。

給水・給湯配管の保温について

配管部分の凍結による破損を予防するために、必ず次のいずれかの方法をおとりください。

- (1) 給水・給湯配管には保温材を巻く。
- (2) 寒冷地においては、保温材だけでは不十分なので、ナショナル水道凍結防止器（品番 DR-2232 (30W)以上、松下電工製）を配管およびバルブ類に巻いて十分な保温を行ってください。

配管の凍結予防

配管下部には排水管および、排水せんを設け、配管中の水が全部抜けるようにしておいてください。

配管は完全に保温してください。（厚さ 25mm 以上）

保温材のみでは不十分な場合もありますので、ナショナル水道凍結防止器（品番 DR-2232 (30W)以上、松下電工製）を配管に巻いて十分な保温を行ってください。

6

電気配線

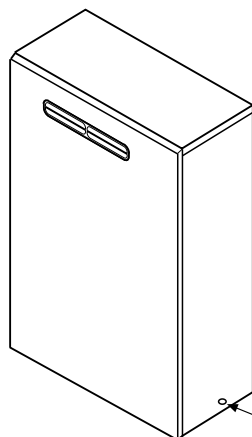
電気配線を電力会社の指定工事店に依頼し、所定の配線をしてください。なお、工事は電気設備基準に準じて行ってください。

1. 電源は交流 100 V ですので家庭用コンセント（OW - 40JBZ: JIS 防雨型防水コンセント）をお使いください。
2. 接地（アース）の方法

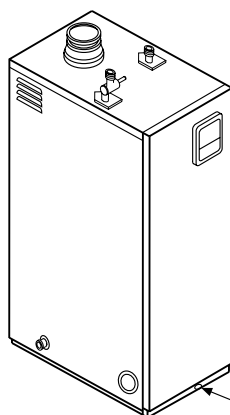
本体底面の「アース端子」部より、D 種接地工事（接地抵抗 100 Ω 以下）を行ってください。

接地（アース）工事は、電気設備基準にしたがって実施してください。

接地（アース）使用電線	
単線の場合	1.6mm 以上
より線の場合	2.0mm ² 以上



<OW - 40JBZ>



<OW - 40JBE>

警告

アース工事をする



アース線接続

アース工事を確実に行ってください。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

本体操作部をリモコンとして使用する場合 (OW - 40JBE)

本体操作部を機器本体から取り外してリモコンとして使用することができます。

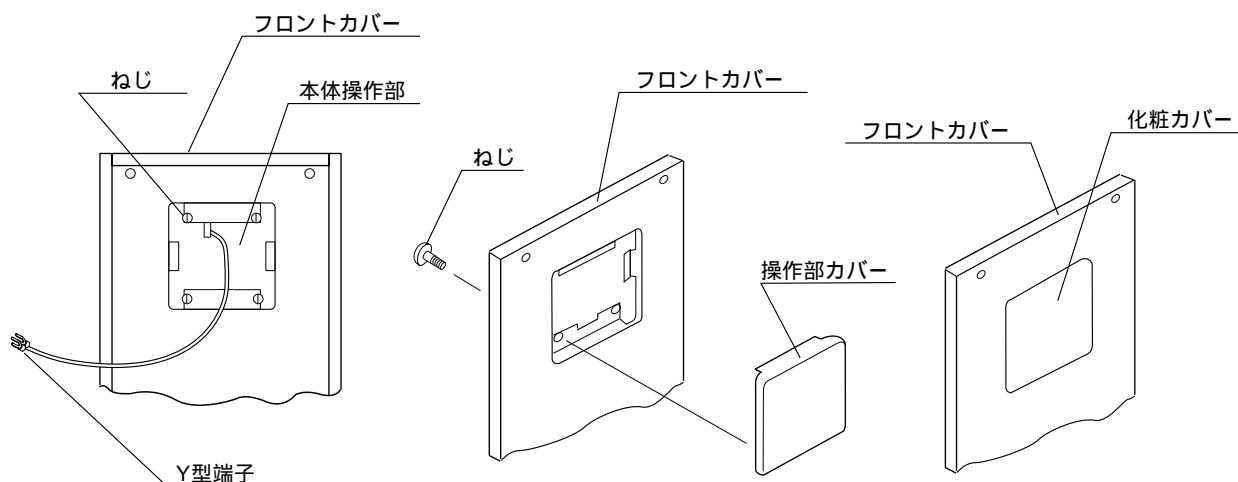
(ただし、リモコンケーブル (別販品) が必要です。)

操作部 (リモコン) の取り外しかた

1. フロントカバーの取り付けねじ (2本) を外し、フロントカバーを外してください。
2. 機器側に接続されているコードを機器側端子台より外してください。
3. 本体操作部を取り出してください。

リモコンを取り外した後の処置

1. 付属品の操作部カバーを本体操作部の穴に表側より組み付けた後、付属品のタッピンねじ 4 本で裏側より固定してください。
2. 付属品の化粧カバーの接着剤保護テープをはがし、外側より貼り付けてください。
(操作部カバーより全周に 10mm 程度はみ出す位置に貼り付けてください。)

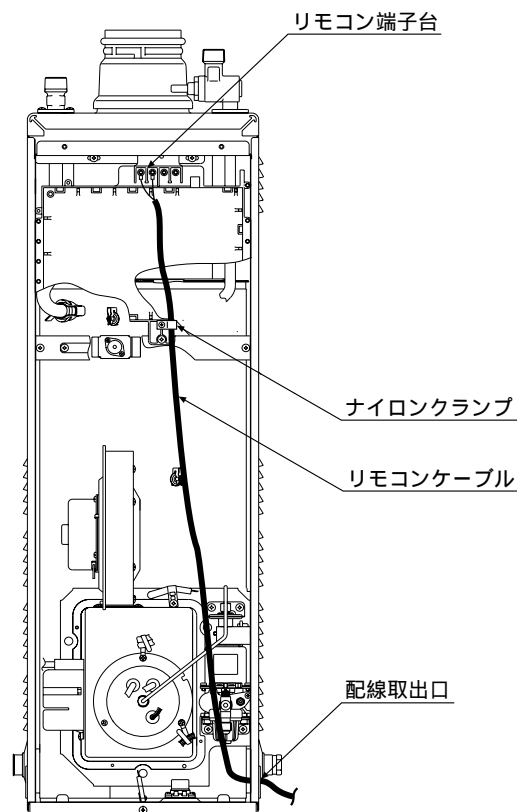


機器本体とリモコンケーブル (別販品) との接続

(OW - 40JBE)

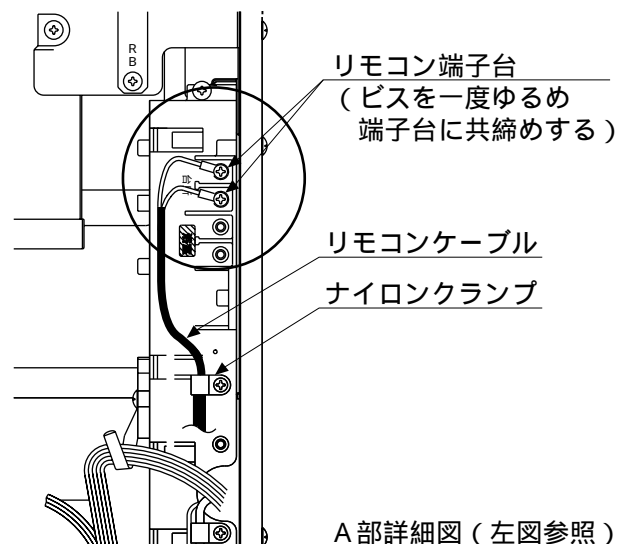
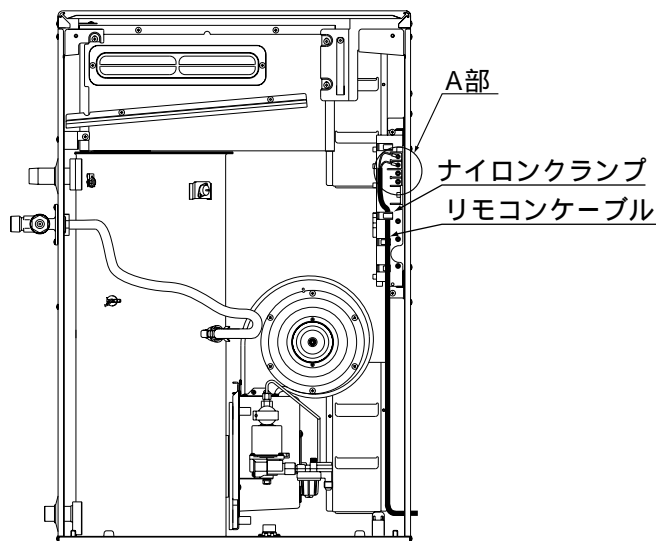
1. リモコンケーブルを配線取出口 (機器両側面の一方を選択) から機器内に引き込んでください。
2. 端子台に Y 型端子を接続してください。(端子に極性はありません。)
3. リモコンケーブルを機器に組込んであるナイロンランプで固定してください。

(注) リモコンケーブルは取付ねじの付いてある専用の端子台に必ず取り付けてください。



機器本体とリモコンケーブル（別販品）との接続（OW - 40JBZ）

- (1) 機器のフロントカバーのねじ 2 本を外し、フロントカバーを外してください。
 - (2) リモコンケーブルを配線取出口から機器内に引き込んでください。
 - (3) 端子台に Y 型端子を接続してください。（端子に極性はありません。）
 - (4) リモコンケーブルを機器に組込んであるナイロンクランプで固定してください。
- (注) リモコンケーブルは取付ねじの付いてある専用の端子台に必ず取り付けてください。



リモコンケーブル（別販品）の配線のしかた

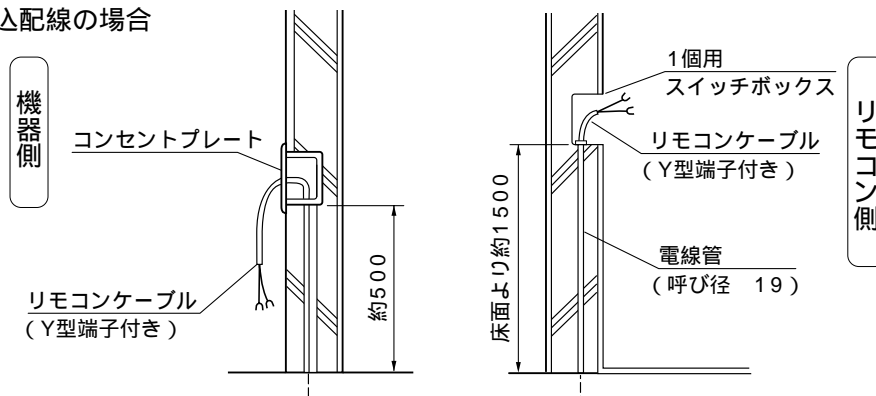
- (注) 配線工事、リモコンの取り付けが完了するまで機器本体の電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

リモコンケーブルを配線する場合の注意（両端の表示を確認してください。）

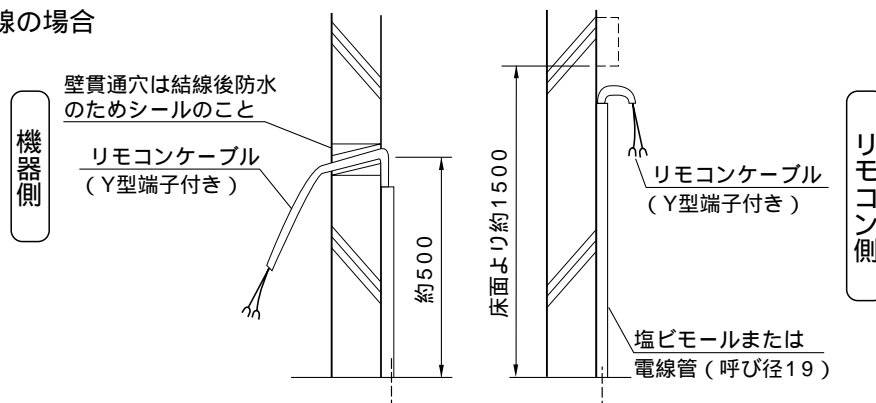
Y 型端子（2 心） リモコン側 Y 型端子（2 心） 機器側

リモコンケーブル配線図（単位: mm）

(1) 壁内埋込配線の場合



(2) 露出配線の場合



7

リモコンの取り付け

リモコンの取り付けが完了するまで機器本体の電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

設置前のご注意

下記の間所には取り付けないでください。

1. 温度の高くなるところ（ガスコンロ付近等）
2. 直射日光のあたるところ（窓際等）
3. 湯気のかかるところ（ガスコンロ、炊飯器等の付近）
4. 水しぶきのかかるところ（給湯せん付近等）
5. 油のかかるところ（ガスコンロ付近等）
6. 特殊薬品を使用するところ（ベンジン、油脂系の洗剤等）
7. このリモコンは浴室内には設置しないでください。

リモコンケーブルを使用してください。
リモコンの取り付け壁面より、リモコンケーブルが引き出されていることを確認してください。
機器側の壁面よりリモコンケーブルが引き出されていることを確認してください。

取り付けかた

(1)化粧枠を外します。

（化粧枠は、はめ込み式になっています。）

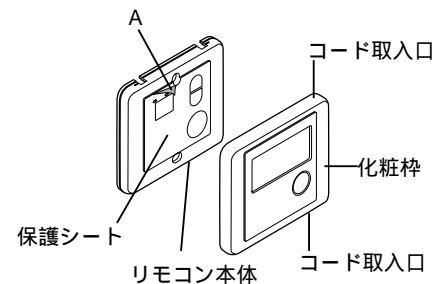
リモコンのプレート表面に保護シートを貼り付けています。

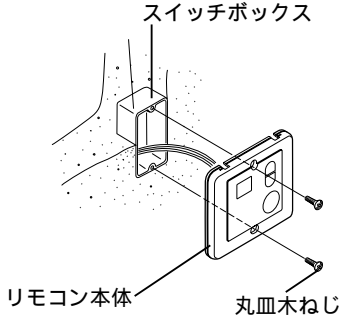
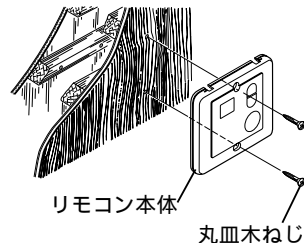
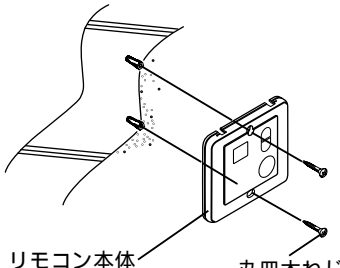
リモコンを固定した後、A部より保護シートを剥がしてください。

(2)リモコン裏面の端子台にY型端子を接続します。

露出配線（壁への固定）の場合、先に化粧枠のコード取入口を、ニッパーなどで開けてください。

（基板を傷つけないよう注意してください。）



スイッチボックスへの固定の場合	壁への固定の場合	
<p>付属の丸皿小ねじを使用して、リモコンをスイッチボックスに固定します。</p> <p>この場合は、オールプラグと丸皿木ねじは使用しません。</p> 	<p>木質壁面の場合</p> <p>付属の丸皿木ねじを使用してリモコンを固定します。</p> <p>この場合は、オールプラグと丸皿小ねじは使用しません。</p> 	<p>コンクリート壁面の場合</p> <p>リモコンの固定用穴（6×深さ25～30mm）をあけ、オールプラグを打ち込みます。次に、丸皿木ねじを使用して固定します。</p> <p>この場合は、丸皿小ねじは使用しません。</p> 

(3)先に取り外した化粧枠を取り付けてください。

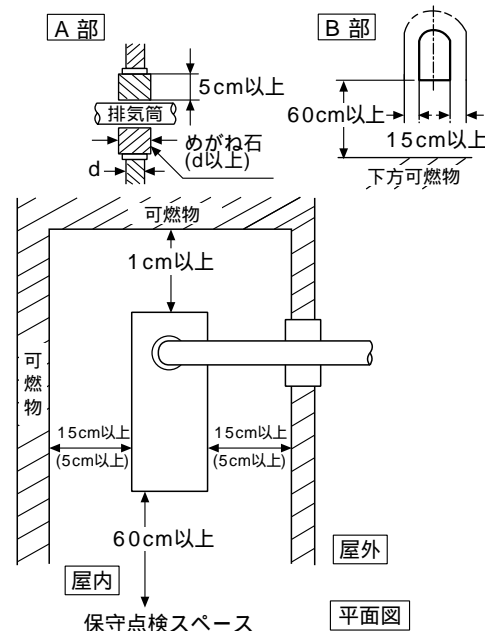
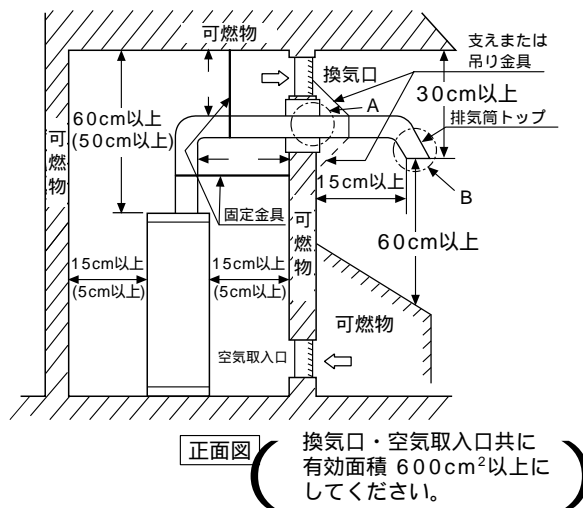
8

排気筒の取り付け (OW-40JBEのみ)

排気筒の取り付け、取り替え工事は専門業者に依頼してください。

可燃物との離隔距離

印寸法は防火性能評定認定品のため設置できる寸法です。
(1cm以上の寸法は通常15cm以上必要です。)



は排気筒の半分以上
()内は防熱板等を使用の場合
排気筒は固定金具で1.5 ~ 2 m間隔で固定すること。

排気ガスを屋外へ排出し機器の安定燃焼を保つため、また、火災予防上、安全のために必ず下記の点を厳守してください。

(1)排気筒の材質

ステンレスやアルチタンなど耐久性の良いものをご使用ください。

ブリキ、鉄板は錆のため、耐久性が劣ります。

(2)排気筒の内径は規定の大きさに合わせて調達してください。

内径 106 mm

排気筒の内径は途中で細くしたり、太くしたりしないでください。

(3)排気筒と可燃物との間隔

排気筒を設置する場所の周囲は防火上安全なものであるかまたは、安全な距離を保ってください。

(4)排気筒延長限界

排気筒長さは7 m 3 曲りまでとしてください。
(排気筒トップの曲りは除く)

排気筒の長さは、防火上の寸法を確保した上で、できるだけ短くしてください。

排気筒の横引きは、排気筒トップに対して必ず先下り勾配 (1/20) としてください。

(5)排気筒の固定

排気筒は風や振動などで倒れないよう支え金具や支線などで固定してください。

排気筒は1.5 ~ 2 mおきに固定金具で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊り金具で堅固に支持してください。

煙突ががたつく場合、排気フランジのねじ穴を利用して煙突と固定してください。

(6)接続部のシール

排気筒の接続部は付属のアルミテープで必ずシールしてください。もし、足りない場合は市販のアルミテープをお使いください。

9

排気筒の点検 (OW-40JBE のみ)

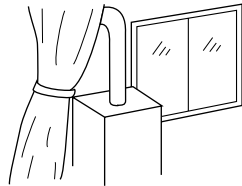
⚠ 注意



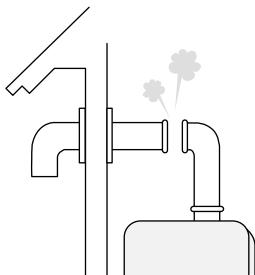
取り付けが終わったら、もう一度点検してください。次のような取り付けは、危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがありますので、必ず修正してください。



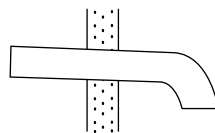
可燃物近接禁止



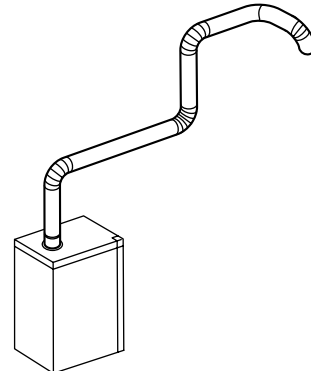
接続のゆるみ点検



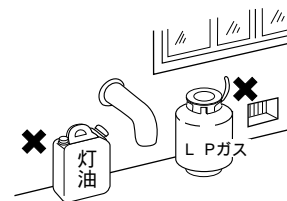
下り勾配のこと



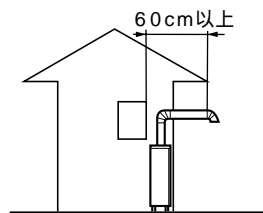
7m3曲がり以下のこと



危険物近接禁止



排気出口と開口部は60cm以上離れていること



排気出口は他の燃焼機器の給気口から1m以上離すこと

正しく据え付けられていることを確認してから、次の要領で必ず試運転を行ってください。

運転準備

(1) 給油

油タンクに灯油を入れます。

(2) 送油経路の空気抜き

給油後空気抜きを行ってください。油タンクの送油バルブを開きオイルストレーナの空気抜きねじをゆるめてください。

(3) 油漏れの確認

配管や機器から油漏れがないか確認してください。

(4) 給水

止水せんを開き、すべての給湯せんから水の出ることを確認してください。

また、排水せん、水抜きせんが確実に閉まっているか確認してください。

(5) 水漏れの確認

配管や機器から水漏れがないか確認してください。

(6) 電源プラグ差し込みの確認

電源プラグがコンセントに完全に接続されているか確認してください。

運転

1. 運転開始手順

(1) リモコンの運転スイッチを押して「入」にしてください。

(2) しばらくして燃焼を開始し、一定時間（熱交換器が所定の温度に達するまで）燃焼した後、停止することを確認してください。

(3) 給湯せんから湯が出てくるのを確認してください。万一未着火を起こした場合には燃焼制御装置の働きで運転が自動的に停止します。このときはリモコンの運転スイッチをいったん「切」にして3秒程待ち再び「入」にし、給湯せんを開けて燃焼ランプが点灯することを確認してください。着火するまでこの動作を数回くり返してください。

正常運転の目安

次の異常などがなく正常であることを確かめてください。

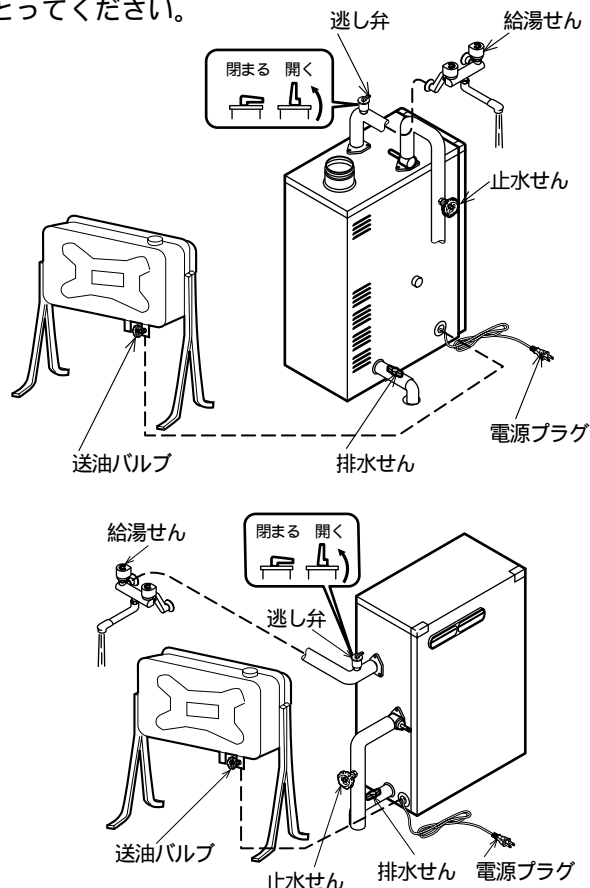
1. 排気トップからすすが出ていないこと。
2. 機器から異常な音がしていないこと。

消火

1. 給湯せんを閉めてお湯が止まることを確かめてください。
2. 運転スイッチを押して「切」にしてください。

凍結予防の水抜き

通水後、配管や機器内に残った水は、お客様が使用されるまでの期間放置すると、凍結して機器が破損するおそれがありますので、次の方法で完全に水を抜きとってください。



1. 運転スイッチを押して「切」にしてください。
 2. 送油バルブを閉め、電源プラグを抜いてください。
 3. 止水せんを閉めた後、排水せんを開けてください。
 4. すべての給湯せんを全開にしてください。
 5. 逃し弁を開け、排水せんより水が出ることを確認してください。
- 使用時には止水せんを開く前に排水せん、逃し弁を必ず閉めてください。